

子どもに向けた戦争と平和の本  
 8月15日は終戦記念日



「平和のバトン」  
 広島の高中生たちが描いた  
 8月6日の記憶  
 弓狩 匡純 著



「父さんはどうしてヒトラーに投票したの?」  
 ディディエ・デニクス 文  
 湯川 順夫 訳  
 戦争ホーキの会 訳



「となりの難民」  
 日本が認めない  
 99%の人たちのSOS  
 織田 朝日 著

自国で起きた戦争や迫害、差別からのがれるため、他国へ避難する「難民」たち。彼らはどんな思いで日本へ来て、どんな境遇で、どんな生活をしているのか。外国人支援団体の主宰者が日本にいる難民の姿を紹介する。

織田朝日氏は、外国人支援団体「編む夢企画」主宰。写真家。おもに東京入国管理局を中心に面会活動、裁判、当事者アクションをサポート。クルド人の子どもの劇団「ウインクス」の脚本・演出を担当。

ミュンヘンにほど近い小さな町で楽器店を営む両親と障がいをもって生まれてきた妹と暮らす少年ルディ。彼の眼を通して、ヒトラーの台頭からナチスの支配、第二次世界大戦、そしてドイツの敗北までを描いた物語。

ディディエ・デニクス氏は、1950年パリ生まれ。「記憶のための殺人」でフランス推理小説大賞、ポール・ヴァイヤン・クーチュリ工賞を受賞。

被爆体験証言者の記憶を、1年かけて油絵に描いて記録する、広島の高校のプロジェクト。今を生きる高校生たちが、証言者と密に接することで、戦争や原爆を見つめなおしていくさまを綿密に取材して描いたノンフィクション。

弓狩匡純氏は、1959年兵庫県生まれ。米テンプル大学教養学部卒業。作家・ジャーナリスト。著書に「国のうた」「社歌」「国際理解を深める世界の国歌・国旗大事典」など。

8月の催しもの

◆催しもの

カイコふれあい  
 たいけん教室  
 (各回5組 要予約)  
 8月23日(日)  
 ・午前11時～  
 ・午後1時～  
 ・午後3時～

◆展示会

扶桑町とカイコ展  
 8月16日(日)～30日(日)

その他の本

- ◆「字のないはがき」  
 むこうだ くにこ 向田 邦子/原作 かくだ みつよ 角田 光代/著 にし かなこ 西 加奈子/絵
- ◆「戦場の秘密図書館～シリアに残された希望～」  
 マイク・トムソン/著 おぐに あやこ 小国 綾子/編訳
- ◆「PEACE AND ME わたしの平和 ～ノーベル平和賞12人の生きかた～」  
 アリ・ウィンター/文 ミカエル・エル・ファティ/絵 なかい はるの/訳
- ◆「夏に降る雪」  
 あんず ゆき/著 さとう まきこ 佐藤 真紀子/絵
- ◆「名もなき花たちと～戦争混血児の家「エリザベス・サンダース・ホーム」～」  
 こでまり るい/著
- ◆「ぼくたちがギュンターを殺そうとした日」  
 ヘルマン・シュルツ/作 わたなべ ひろすけ 渡辺 広佐/訳
- ◆「わたしがいどんだ戦い1940年」  
 キンバリー・ブルベイカー・ブラッドリー/作 おおさく みちこ 大作 道子/訳

俳句

「夏被」  
 慎みの疫病の空や夏被へ  
 稚の手の先にめづらし扇風機  
 退院の友へ存問夏帽子

川柳

扶桑川柳クラブ  
 コロナ禍に暮らし縛られ痛み知る  
 この暑さ星の衝突なかつたら  
 降るような満天の星虫の声

短歌

「夏空」  
 男子生徒ら物理のノート見せ合いて  
 赤き電車行く夏空の下  
 湯上りの果実酒で笑むひとときを  
 夫いつまでもこの夏の願い  
 芋畑の溝に潜りて砲弾を  
 避けしと言う女人逝きて久しき

詩吟

「老師を偲び吟詠感有り」  
 花を詠じ月を賦して塵煩を滌ぎ  
 日日精研す風雅の園  
 詩道窮り無く才本より拙なり  
 礼節を堅持して吟魂を養わん  
 「意」 風月を楽しんで吟詩に接すれば、世間の煩わしさも忘れることが出来る。常日頃、一堂に会して仲間の人達と励みます。吟詩の道は、奥深くいくら学んでも終わりはありませんし老師の教えを充分生かせることはなかなかできません。仲間を大切に終生吟詩の道が続けたいと思つ毎日です。

ふそう俳句会  
 千田 一到  
 伊藤美保子  
 近藤 喜山

扶桑川柳クラブ  
 土屋 夢子  
 石田游多伽  
 山田津多恵

ふそう短歌会  
 村雲たみえ  
 吉村 昌子  
 北村 久子  
 川手 一海

日本詩吟正風流正師範  
 川手 一海

正風流二代目家元 山内 正風